

# 1人1台端末の活用による実践事例

(特別支援学校)

学校名	岡山健康の森学園支援学校	実践者名	窪田真理子・城井田奈都美
実践場面 (教科、領域、行事等)	算数科		
単元・題材名	「何番目」を考えよう		
学習目標・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 左右上下の端から何番目が答えることができる。</li> <li>・ イラストについて、左右上下や何番目などの言葉を使って表現したり、クイズを作ったりすることができる。</li> <li>・ 左右上下や何番目などの言葉を使ってクイズを考えたり、考えたクイズを友達と出し合ったりすることができる。</li> </ul>		
対象の児童 生徒の実態	小学部3年生男子 3名 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上下左右については、書いてある文字を手掛かりにして位置を判断している。</li> <li>・ 一対一対応で30までの物を数えることができる。</li> <li>・ 平仮名と片仮名を読んだり書いたりすることができる。</li> <li>・ これまでに、Keynoteで文字を入力した経験がある。</li> <li>・ バスや電車などの乗り物に興味があり、注目することができる。</li> </ul>		
活用の概要 (使用アプリ名を含む) ※写真も掲載する			
<p>(1) keynoteで作成した横並びの電車の各車両(3両)のイラストをホワイトボードに映し、各車両に児童や教師の顔写真を貼ったり、「右」や「左」などの位置を表す言葉を読んで学習したりする。</p> <p>(2) (1)の画面を見ながら、左右の端から何番目に自分や教師がいるのかを、「(右・左)から○番目」と表現する。</p> <p>(3) クイズ作成用と解答用の様式を個人タブレットに送り、(1)の画面を見ながらクイズを作成したり、友達の作ったクイズに解答したりする。クイズは、順番にホワイトボードに映し全員で解答し、クイズ作成者が教師と一緒に○×を伝える。</p> <p>【問題用フォーマット】</p> <p>「(右・左)から○ばんめにいるのは、だれですか。」</p> <p>「～(名前)は、(右・左)から、なんばんめですか。」</p> <p>【解答用フォーマット】</p> <p>「～(名前)です。」</p> <p>「○ばんめです。」 ※ _____ が、入力箇所。</p>			
<p>(4) (2) (3)の進め方を基本とし、車両を増やしたり、動物など児童の興味のあるものを乗車させたりして、学習の定着を図る。</p> <p>(5) 上下についても同様の流れで学習を進める。電車→マンション</p>			
活用のポイント・改善策等			
<p>◇活用のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電車のイラストをホワイトボードに映し、全員で確認しながら学習できたこと。</li> <li>・ クイズ作成用と解答用の様式に入力することで、クイズの作成、解答ができたこと。</li> <li>・ 個人が作成したクイズや解答を、ホワイトボードに映すことで、全員で共有できたこと。</li> <li>・ Keynoteで作成した教材なので、理解に応じて、教材を細かく改善することができた。</li> </ul> <p>◇改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童によっては、文章全体を入力してクイズを作成したり、解答したりすることができるように、もっと個々に応じた形にすること。</li> </ul>			